法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

根岸謙之助『万葉の民俗』

益田, 勝実 / MASUDA, Katsumi

(出版者 / Publisher)
法政大学国文学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
日本文學誌要
(巻 / Volume)
39
(開始ページ / Start Page)
87
(終了ページ / End Page)
87
(発行年 / Year)
1988-06-30
(URL)
https://doi.org/10.15002/00019557

（一九八八年三月卒業）

【添えがき】　わたくしが橋本恭子さんの卒業論文に特に注目したのは、橋本さんが日本古代の〈袖振り〉の慣習と端袖（はたそで）（鰭袖）とをしっかり結びつけて考えておられる点です。日頃は袖先の内側に折ってしまっておく白い端袖を外に出し、袂別に際して袖振りに用いることを、従来の諸注釈は見のがしてきました。袖振りの慣習はそういう袖の構造と結びついて出てきましたが、奈良時代の民衆、それも男性、防人などの旅立ちに袖を振るのは、実際に端袖であったかどうか、研究の余地がありましょう。

しかし、〈袖振り〉の慣習と端袖の関係は、今後、万葉の諸注釈が無視できないことになりました。橋本さんは、卒業を一年延期されたので、実際の論文の提出は、八七年一月でした。その直前八六年七月にも、服飾史の方では、小川安朗氏の『万葉集の服飾文化―万葉人の服飾感覚―』上・下（大興出版）が出ており、それは珍しくも、端袖を図解しているなどたのもしい点がありましたが、その端袖と袂別の時の袖振りとを直結させてはおりませんでした。

中国の壁画などにも、端袖を出して舞う図柄はありますが、日本の社会の生活慣習との深い結びつきには、多くの人が気づいておりませんでした。おてがらだと思います。　（益田勝実）